

# 令和7年度瀬戸大橋騒音調査結果

瀬戸大橋を走行する鉄道の島しょ部における騒音の現況を把握するため、与島の2地点及び櫃石島の1地点で騒音調査を実施した結果、昭和53年に本州四国連絡橋公団（現在の本州四国連絡高速道路株式会社）が設定した環境保全努力目標を達成していました。

- 1 調査日時 令和7年12月17日(水)12時～18日(木)12時
- 2 調査地点 計3地点

調査地点		橋からの距離
与島	A地点	約50m
	B地点	約80m
櫃石	C地点	約80m

国土地理院地図（標準地図）を加工して作成

- 3 調査機関 香川県（環境管理課、環境保健研究センター）、坂出市（生活環境課）
- 4 調査方法等 調査期間中に通過した列車について、各列車の騒音の大きさ（騒音ピークレベル）を測定し、上り・下り列車を合わせて、連続して通過する20本の列車のうち、騒音の大きさが上位10本の平均値（評価値）を算出して、評価しました。
- 5 調査結果 いずれの調査地点においても、環境保全努力目標を達成していました。

調査地点		評価値（単位：デシベル）		
		今回調査結果 （最高～最低）	前回調査結果 （最高～最低）	環境保全 努力目標
与島	A地点	80～78	77～72	80以下
	B地点	73～71	75～70	80以下
櫃石	C地点	73～67	71～68	75以下

[注1] 環境保全努力目標は、昭和53年に本州四国連絡橋公団が作成した環境影響評価書において定められたものです。同評価書では、一般区間80デシベル、橋梁区間85デシベルを環境保全目標として設定し、努力目標としてそれぞれ5デシベル程度低減することとしています。なお、今回調査した与島2地点は橋梁区間、櫃石島1地点は一般区間に該当します。

[注2] 評価値は、新幹線鉄道騒音の環境基準において使用される騒音の評価方法を一部準用して算出しています。

[注3] 与島の前回調査結果は令和6年度（令和6年12月10日～11日）、櫃石島の前回調査結果は令和2年度（令和2年12月8日～9日）の調査結果です。

## 6 前回調査との比較

[ 単位：デシベル ]

項目		測定地点	列車本数	与島				櫃石	
				A地点		B地点		C地点	
				今回 (前回)	増減	今回 (前回)	増減	今回 (前回)	増減
評価値	最高値	/	80 (77)	+3	73 (75)	-2	73 (71)	+2	
	最低値		78 (72)	+6	71 (70)	+1	67 (68)	-1	
全列車の騒音ピークレベル	最高値		81 (81)	0	76 (78)	-2	79 (76)	+3	
	最低値		71 (66)	+5	64 (64)	0	59 (59)	0	

列車種類別の騒音ピークレベルの平均値	全列車	139 (139)	77.5 (73.7)	+3.8	70.7 (71.3)	-0.6	68.3 (67.8)	+0.5
	電車特急	32 (32)	77.8 (72.1)	+5.7	70.6 (69.5)	+1.1	67.8 (68.4)	-0.6
	しおかぜ 8000系/8600系	30 (30)	77.8 (72.0)	+5.8	70.6 (69.4)	+1.2	67.9 (68.3)	-0.4
	サンライズ 瀬戸 285系	2 (2)	77.5 (72.7)	+4.8	69.8 (70.4)	-0.6	67.0 (69.9)	-2.9
	ディーゼル特急 南風 2700系	28 (28)	77.7 (77.3)	+0.4	72.1 (75.1)	-3.0	70.8 (69.0)	+1.8
	マリンライナー 5000系	73 (73)	77.4 (72.0)	+5.4	69.6 (69.2)	+0.4	67.3 (67.2)	+0.1
	貨物	6 (6)	76.9 (71.0)	+5.9	73.4 (70.8)	+2.6	64.0 (64.0)	0

[注1] 前回の列車本数及び与島の前回調査結果は令和6年度（令和6年12月10日～11日）、櫃石の前回調査結果は令和2年度（令和2年12月8日～9日）の調査結果です。

[注2] 列車種類別の騒音ピークレベルの平均値は、各列車の騒音ピークレベルをパワー平均したものです。

[注3] 櫃石の今回の列車本数は、全列車140本、電車特急33本（内しおかぜ31本、サンライズ瀬戸2本）です。